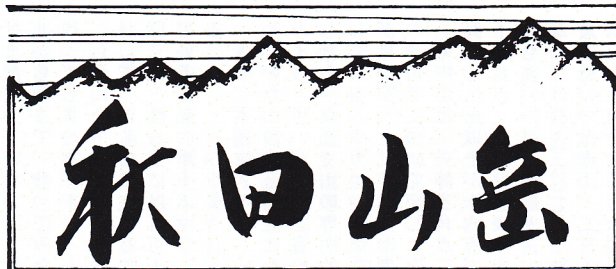


2012



平成 24 年 11 月 発行

No. 88

公益社団法人 日本山岳会秋田支部

秋田市千秋久保田町
2 番 23 号 佐々木方

TEL・FAX 018 (833) 2525

発行者 佐々木 民 秀

編集者 鈴 木 裕 子

秋の里山山行 岩山

紅葉の里山山行 岩山へ

伊藤 秀雄

予定していた十月二十七日(土)、昨日までの悪天候もがらりと変わり、秋晴れの好天。明日からまた崩れるとの予報が信じられないくらいに青空のもと、大館トレイルガイドを参考に、国土地理院の地図に山名の無い山・岩山へ、参加者十四名(うち三名少し遅れて追従)で実施した。

朝七時半、迎えの車に同乗して二八五号線を北上し、大館比内広域農道を大館市街方向に入り市民の森駐車場へ。午前九時四十分、駐車場左脇の遊歩道をゆつくり、のんびり登山開始。途中の鹿園では可愛らしい小鹿(といっても十年になると飼育員が言っていた)と親鹿、計四頭が人懐かしそうに迎えてくれた。

広い遊歩道をしばらく行くと、東屋やトイレのある芝生広場に着く。ここから少し先、十分ほど進んだところに山頂方向と周囲コースとの分岐点に案内図板があり、山頂方向を目指す。ここからは山道らしくなり、一列になりながらもくもくと登る。

歩き始めて五十分、老朽化して今は登れない危険な展望台に着き一息入れる。これから先、踏み跡はあるが刈払いはしていない。所々目印のリボンを結びながら進み、やつと目指す地点の目印となる大きな岩が見えてきた。かなり急坂、一歩進むと二歩も滑り落ちるような斜面を登り切り、北と西に展

望の開けた今日の目標地点約二六〇mのピーク・岩山へ着いたのは十一時過ぎ。ここでお昼にしては少し早い、この先六〇〇m程の所に、この山で一番高いピーク・三一五mが見えるのでここまで行くことにした。

踏み跡もなくかなり藪漕ぎと思われたが、うつすらと踏み跡があり、森林管理局の境界標柱もある。今野副支部長を先頭に、一歩また一歩と切り開きながら三十五分でピークに到達。

記念撮影後下山開始。色鮮やかに紅葉している木々を眺めながら歩く秋晴れの山中はとても心地よい。岩山のピークに戻ると追従してきた三名の会員が待っていた。



ピーク 315m 紅葉に囲まれて



岩山の山頂で

一同、夫々積る会話のうちにしばし昼食を楽しむ。四十分程して下山、急斜面はロープを張って慎重に下る。案内板のあった分岐から左の周囲コースへ、トンボ公園をたどり十四時過ぎ登山入口駐車場へ到着。

久方ぶりに会う山友達もいて、屈託のない会話。そして紅葉の山肌を眺めながら足元のキノコに目をとめ、風にそよぐスキ等、秋の日を充分に楽しみ、無事に秋山山行を終えた。

参加者 佐々木民秀 今野昌雄

福田光子 柳田勇悦 鈴木裕子

鎌田倫夫 柴田勲 伊藤秀雄

石川祐子 佐々木長秀 佐々木悦子

会員外 佐藤満子 塚田もも子

台湾五岳登頂を終えて

鈴木裕子

秋田支部「台湾・北大武山」山行に参加して、五月十日無事に登頂し、念願の台湾五岳を完登した。

思い起こせば、南湖大山（三七四二m）に一九九四年（平成六年）に登頂してから十八年の月日が過ぎていた。

南湖大山に登った時は、登山技術も高度障害の知識もなく、ただ行きたい、登りたいだけで参加していた。山頂直下の山小屋・南湖山荘の寒さ、高度障害の苦しさを思い出す。蜘蛛の子が気流に乗って飛ぶ様子を初めて見、ご来光に感動し、雲海が眼下に広がる雄大な景色に浮かび上がった影南湖大山が今も目に浮かぶ。

玉山（三九五二m）は、一九九六年（平成八年）、本峰、西峰、北峰と回り、三〇〇〇m峰での滞在が長かったため、酸素不足に寝不足が重なって辛かったが、台湾最高峰（旧新高山）に登った喜びは大きかった。翌日登った雪山（三八八六m）は、東峰でご来光を仰ぎ、そして紅葉の美しさが思い出される。

秀姑巒山（三八六〇m）は、一九九八年（平成十年）、八通関古道を二日間歩き、三日目に登頂、玉山の荒々しい山肌を見ながらの歩きであった。

秀姑巒山に登り終えて、気が付くと台湾五岳にはあと一つ、北大武山を残すのみとなり、是非にも二〇〇一年（平成十一年）に計画された。ところが台湾大地震が起こり、中止となって

しまった。

二〇〇四年（平成十三年）は台湾台風十六号の大雨により、北大武山登山道が崩壊するという大災害が起こり、二〇〇六年（平成十五年）には鳥インフルエンザ大流行となり、何れも中止、北大武山はどんどん遠くなっていた。

この間、支部山行は韓国を中心に行なわれていたが、北大武山はあきらめきれなかった。訪台の度にご案内を頂いていた台湾岳人・林照雄さんも年を重ね、大きな山へのご案内は年々厳しくなるばかり、私も年を重ね、北大武山はほとんどあきらめの状況であった。

二〇一〇年（平成二十二年）頃、アルパイン・ツアー社の山田勝さんに計画をお願いしたが、なかなか返事がこず、あきらめかけていた頃に回答があり、企画をお願いした。

二〇一二年（平成二十四年）支部総会において支部山行として承認、五月七日、十四日に実施した。

七日、秋田を出発。台北・松山空港で林ご夫妻のお迎えを受ける。

八日、台北から高雄へ。高雄にある「澄清湖」は秋田県田沢湖と姉妹湖として仙北市と交友がり、「辰子飛翔之像」が湖畔に建てられていた。

もう一つ驚いたことは、御土産品店で、秋田・玉川温泉の湯の花を加工したペンダントやブレスレットを販売していて、健康に良いと大宣伝、店内に

は壁いっぱい大きな玉川温泉の写真が貼れていて、知事の顔写真もあった。「私は日本の秋田から来た。玉川温泉は地元だ。」と言ったが、「まだブレスレットはお持ちでないでしょう。健康のために是非」と勧められた。

九日、同行の山岳ガイド、林さんの甥林哲全（男性）さん、王主年（女性）さんと共に出発。災害で崩壊した箇所は土嚢で補修されていて、山側にロープが張ってある大きな崩壊箇所が二か所あった。六時間程で日本統治時代に建てられたものをそのまま使用している檜谷山荘着。

十日、四時出発。樹林帯の中に山荘があるので真つ暗な中、ヘッドライトを頼りにジグザグの道を登り、空も白みはじめた頃、紅檜ご神木地点を通過して稜線に出る。三角点まであと一・五Kの標柱あり。九時過ぎ、ようやく大武祠着。ここには「高砂義勇軍記念碑」と少し上に鳥居があり、日本統治時代に建てられたという「大武祠（神社）」があった。小雨となり、寒い。

あと〇・5K、ここから瘦せた稜線のアップダウンが続く、十時四十五分頃、露岩の山頂部に出ると一等三角点のある頂上であった。

十一時下山開始。十七時頃山荘着。約十三時間の行動時間だった。

高雄を観光して台北に戻り、十三日、林さんのご案内で陽明山・七星山へ。（訪台の度に計画したが、必ず雨になるので「雨降り山」と名付けていた）

小油坑登山口から噴火口脇の整備された石段の歩道を登り、一等三角点のある七星山（一一二〇m）の頂上に着き、東峰を経て冷水坑登山口に降りた。

故宮博物館や北投温泉を見学後、林さんのご自宅で登頂のお祝いをして頂く。奥様の台湾家庭料理は美味しく、懐かしかった。

この日は母礼節（母の日）であったので奥様からカーネーションを頂いた。お心遣いがとても嬉しかった。

十四日。早朝、ホテルまで見送りに来ていただいた林さんと再会を約束し、台湾・松山空港から羽田空港まで。楽しかった訪台登山を無事に終えた。

高度障害の苦しき辛さ、山岳歩道の難所を岳兄のご指導と岳友の手を借りて越えたこと、雄大な山脈、光り輝いていた山頂でのご来光、満天の星空、美しい花々、山小屋での暖かな飲み物、岳友のいびき等が次から次へと思い出される。そして、台湾の歴史にも触れることができた事等、貴重な体験をした。

ご案内頂きました林照雄さんはじめ、ご協力いただきました秋田支部の方々、に心から感謝申し上げます。ありがとうございます。



澄清湖の「辰子飛翔之像」の前で

三角点ガイドあれこれ

永年会員 長 岩 嘉 悦

山歩きを六十年以上してきたが、まだまだ登っていない山も数多くあり、北から南まで、登ってみたい山も多数残ってしまった。

百名山を中心に登っている人も多いが、私は、百名山は完登していないが、同じ山・焼石岳には五百十二回も登っている。私のホームマウンテンでもある。

さて、本題に入るが、いつも気になっていた山頂の三角点について調べてみようと思ひ、色々と資料や文献を探したら、京都で山の専門的な本を出版している「ナカニシ出版」に新しい本が見つかった。それを参考にして県内の三角点について記してみたいと思う。県内では、一等三角点二十四点、標高五〇〇m以上が十六点、五〇〇m以下が八点。内訳は別表に示した様に、最も高いのは秋田駒ヶ岳・男女岳（おなめだけ）で一六三・七一mとあり、最も低いのは赤山一二三・三一mで、秋田市浜田の大森山公園内にある。

日本国内には一等三角点は九七五点ある。尚、三角点は一等から四等まであり、全部で一〇九〇七点、内、二等三角点は五〇六〇点、三等は三三三二点、四等は七〇七一点と表されている。（国土地理院地形図調べ）

我が国の三角測量は、明治十五年（一八八二年）に陸軍参謀本部測量課（現国土地理院）により、一等三角点測量の出発となる「基線」を「相模野基線」

といい、神奈川県北東部に最初に設置されている。最近では「GPS」測量やトータルステーションという光波を用いた新技術が登場し、地形や距離等の測量が簡単に、しかも正確に行われる様に変化している。

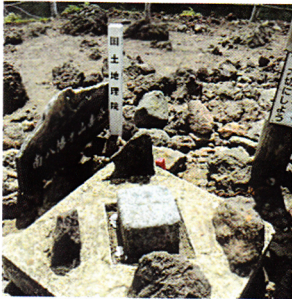
別表には記載されていないが、本県との県境上にある山の一等三角点を記すと、

鳥海山（二二九・一九m）山形県
栗駒山（一六二六・六八m）岩手県
焼石岳（一五四七・六五m）岩手県
和賀岳（一四三九・五〇m）岩手県
がある。

秋田県の三角点数

一等三角点 二四点
二等三角点 一五九点
三等三角点 一一一八点
四等三角点 二一四一点
合計 三五四二点

（参考資料「一等三角点全国ガイド」）



秋田駒ヶ岳・男女岳
一等三角点

別表

秋田県内の一等三角点

No.	山 名	点 名	標高 (m)	5 万分図名
1	男女岳 (駒ヶ岳)	駒ヶ岳	1637.31	雫 石
2	森吉山	森吉山	1454.28	森 吉
3	田代岳	田代山	1177.88	田代岳
4	太平山	太平山	1170.48	太平山
5	大仏岳	大佛岳	1166.79	田沢湖
6	丁岳 (ひのと)	丁岳	1145.72	鳥海山
7	白地山	白地山	1034.15	十和田湖
8	中岳 (ちゅう)	中岳	1024.26	花 輪
9	烏帽子山	烏帽子岳	954.43	湯 沢
10	長場内岳 (おさばない)	長場内山	946.69	中 浜
11	黒森山	黒森	763.15	六 郷
12	本山	男鹿島	715.02	船 川
13	姫ヶ岳	姫ヶ岳	650.61	阿仁合
14	笹森山	笹森山	594.61	本 荘
15	高森	高森山	592.67	大 館
16	(無名峰)	小国巾山	516.40	矢 島
17	摩当山	大子内	444.10	鷹ノ巣
18	三ッ森山	三森	412.08	浅 舞
19	(無名峰)	沼沢山	346.03	刈和野
20	森山	森山	325.35	五城目
21	天ヶ台山	尼ヶ台	314.64	横 手
22	幟山	幟山	211.08	能 代
23	(無名峰)	三崎山	161.33	吹 浦
24	大森山	赤山	123.31	羽後和田

事務局担当者会議報告

鈴木裕子

七月二十八日、午前十一時から本会議室で開催。鈴木事務局担当出席。始めに、福島支部が設立六十五周年事業として実施したバキスタンの無名峰（六一〇五m）に七月二十一日に登頂、ウメデイスール（日本人「希望の峰」と命名したことが報告された。会議は、公益社団法人に移行したことによる「会計処理の手引」に基づく説明が主であり、本会との連携決算の注意事項等が説明された。

特に、支部助成金については、公益的事業支出と共益的支出についての区分を明確にし、公益的事業に支出が無い時は補助金を返還しなければならぬとのこと。秋田支部としては、これまで本会の補助金が運営費（共益的）の大部分を占めていたことと、募集登山などの公益的事業を行うには、人的、経費的な面で無理があり、補助金を返還することになると思う。返還となれば支部の運営費にも影響を及ぼすのではないかと懸念している。補助金は一人当たり公益的事業へ一五〇〇円、共益費として一〇〇〇円を会員数に乗じた額となる。

また、各種団体からの寄付金、収益金のある支部は、本会の収益となり、改めて交付金として本会から交付されるシステムとなる。

本会への報告も、新年度事業は一月末、会計決算は三月末であり、支部総

会で承認を得る前に報告という形になる。決算報告の勘定科目も統一され、事業別予算ごとに証憑を添付し、それに従って報告することになる。

また、寄付金にかかる税金、講師謝礼の源泉徴収、寄附金特別控除等についても説明があった。

支部活性化プロジェクトチームから「公益活動としての山行注意事項」が示された。参加者の年齢や経験、緊急連絡先を把握し、参加者に責任の範囲を（自己責任）自覚してもらい、万際に備え保険の確認をする等、後日「旅行業法に関する勉強会」が開催されるとのことであった。

二十三年度決算における事業補助金、運営補助金の問題点について、領収書のコピー、印鑑漏れ等について指導があった。

山の日プロジェクトチームからは、六月第一日曜日を候補として行動し、国民の祝日制定を目指すということであった。

公益法人に移行したことによって、会員数が多く、寄附金や収益があつて公益的事業を行える大都市の支部と、人的、財政的に弱小の支部との格差を感じることが多くなったように思う。

秋田支部としては、背伸びせず、身の丈にあった支部の運営を心がけ、山を楽しむことを第一の目標としたいと思つてゐる。

新入会員紹介

○藤田 正義 No.一五一七五

秋田市太平目長崎字上目長崎

二〇〇ノ三

昭和十八年十二月九日生

電話 〇一八二一八三八―二四一五

入会 平成二十四年六月

紹介者 佐々木長秀 佐々木民秀

自然保護全国集会開催

六月三十日～七月一日、尾瀬高原ホテルで開催。

三十日、小泉武栄氏による基調講演「尾瀬の自然学」や、分科会では尾瀬の管理の在り方、尾瀬の野生動物等が話し合われ、七月一日はフィールドスタディが行われた。

福田光子 大船武彦参加
(自然保護委員会会報
木の芽草の芽より)

報告書を寄贈

支部設立五十周年記念事業「韓国 老姑壇・月出山・弥勒山」交流登山報告書がようやく完成し、本会及各支部、図書館、関係者へ寄贈・配布いたしました。

会務報告

◎秋田県山岳連盟総会

四月二十二日、秋田市「イヤタカ」に於いて開催。出席者（代議員）十名。事業・決算の報告等諸議事を審議。役員改選が行われた。

役員改選における当支部関係者
顧問 高橋守 加賀谷昭一
真坂洋一 今野昌雄
副会長 荏司昭夫
理事 小野信也 三浦俊雄
佐藤助雄

◎中央地区山岳協議会総会

六月二十八日、午後六時三十分から秋田市三吉神社で開催。

十団体から十五名出席。事業報告、決算報告、新年度の事業、予算等を審議承認。

山開き市民登山ヘリダー派遣、太平山倒木処理と清掃刈り払い等の整備要望を協議。

また、秋田県山岳遭難発生状況や旭又駐車場登山入口に、案内板設置の計画があること等について資料が配布され、報告、説明があった。

役員改選については、全員留任となつた。

役員改選による当支部関係者
会長 佐々木民秀
理事（会計） 柳田勇悦

当支部から佐々木民、堀井他団体から柳田出席